

琉球大学学術リポジトリ

沖縄県の食肉消費構造の特質について

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): 沖縄, 食肉消費構造, 自給率 キーワード (En): 作成者: 吉田, 茂, Yoshida, Shigeru メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015341 |

沖縄県の食肉消費構造の特質について

吉 田 茂

(琉球大学農学部農学科)

Shigeru YOSHIDA : Characteristics of the meat consumption structure in Okinawa

I はじめに

沖縄県は日本国内では最も畜産に適した県だと言われながら、その実、食肉の自給率(1975年)で見ると、全国平均では牛肉85%、豚肉85%、鶏肉98%¹⁾といずれもかなり高い比率を占めているが、沖縄県の場合には牛肉7.8%、豚肉94.8%、鶏肉42.0%²⁾となっており、豚肉については全国平均よりも高いが、牛肉および鶏肉は低い。特に牛肉は低い。県内の牛肉消費のほとんどが輸入牛肉によってまかなわれている。[※]

ところが、県内の肉牛生産体制は弱いのかと言うと必ずしもそうではなく、1975年の実績で見ると肉牛を生体で本土へ5,289頭移出し、同時に県内牛肉生産量509トン(生体で2,177頭)のうち182トンは枝肉で本土へ移出している。このように沖縄県は安い輸入牛肉を消費し、県産牛(牛肉)は本土へ供給すると言う特異な需給形態をとっている。³⁾ 鶏肉については日本復帰前は輸入規制措置がとられており、1971年には自給率90.7%にまで高まったが、復帰と同時に輸入規制がとられ、外国産の安いブロイラーに圧迫されて県内ブロイラー産業は伸びな

み、現在のような自給率にまで低下している。

食肉の消費構造は地域的な特質、供給状況、価格、所得、外国の食生活の影響等によって異なっており、わかれてくるものである。

本研究では沖縄県における食肉(牛肉、豚肉および鶏肉)の消費構造の特質を明確にしたい。

- 注 1) 社団法人 日本食肉協議会 1976年～食肉流通近代化促進研究会報告書～ 秩序ある食肉流通への道 p.48
 2) 沖縄県農林水産部 1977年生鮮食料品安定移入対策調査報告書 pp.20, 21, 22
 3) 注2)に同じ。pp.51～52

II 所得と食肉消費量との関係

農産物に対する需要の弾力性は一般に低いのであるが、その中において食肉の弾力性はやや高い。つまり、食肉は所得の変化に対する反応がより強い。

国民1人当り所得は過去10カ年間に3.7倍に増加

第1表. 国民所得および県民所得(1人当り)

| | 1966 | 1967 | 1968 | 1969 | 1970 | 1971 | 1972 | 1973 | 1974 | 1975 | (1975/1966) |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|-----------|-------------|
| 国民1人当り所得 | | | | | | | | | | | |
| (実数:円) | 308,038 | 361,654 | 423,126 | 486,189 | 568,358 | 624,682 | 730,696 | 940,421 | 1,056,418 | 1,139,271 | (3.7) |
| (指数:%) | 100.0 | 117.4 | 137.4 | 157.9 | 184.5 | 202.8 | 237.2 | 305.3 | 343.0 | 369.9 | |
| 県民1人当り所得 | | | | | | | | | | | |
| (実数:円) | 161,981 | 191,098 | 216,827 | 251,768 | 292,924 | 341,469 | 458,269 | 626,234 | 754,242 | 855,500 | (5.3) |
| (指数:%) | 100.0 | 118.0 | 133.9 | 155.5 | 180.9 | 210.8 | 283.0 | 386.6 | 465.7 | 528.2 | |
| 所得格差 | | | | | | | | | | | |
| (県/国:%) | 52.6 | 52.8 | 51.2 | 51.8 | 51.5 | 54.7 | 62.7 | 66.6 | 71.4 | 75.1 | |

資料: 沖縄県企画調整部

※ 復帰特別措置により本土より有利(沖縄県だけ特別割当がなされている)に輸入がなされている。

したが、沖縄県民1人当り所得は、それを上回り5.3倍に増加した。したがって、所得格差は1966年の52.6%に比べるとかなり縮小し、1975年には75.1%となっている。(第1表参照)

食肉の消費量は所得との関係のみならず、所得の上昇にともなって確実に増加している。沖縄県では1966年の14.6kgから1975年の31.0kgへ増加し、その増加率は2.1倍である。所得の伸び率よりは低い。しかし、消費の伸び率は食肉の種類によって異なる。最も伸び率の高いのが牛肉であり、この間に4.8倍増加した。鶏肉の伸び率も高く、4.1倍である。ところが豚肉の伸び率は低く、1.6倍しか増加していない。食肉消費構造の中で豚肉の占める比重が高く、その豚肉の伸び率の低いことが、牛肉、鶏肉の伸び率が高かったにもかかわらず、食肉全体の伸び率をおさえている要因になっている。

このように豚肉の消費の伸び率が低い要因については後ほど食肉の消費構造の変化の項で説明することに

する。

全国平均の食肉消費の伸び率は2.1倍であり、食肉全体としてとらえる限りにおいては全国平均も沖縄県も同じような伸び方を示しているが、食肉を種類別にみると全国平均と沖縄県ではかなりの相違が認められる。牛肉と鶏肉の伸び率は全国平均は沖縄県にはるかにおよび、それぞれ2.3および2.1倍であるにすぎない。豚肉消費の伸び率は全国平均においても沖縄県同様に低いが、沖縄県に比べると若干高く、1.9倍である。

Ⅲ 食肉消費構造の変化

食肉全体のみならず沖縄県民は全国平均と比較して、1966年においても1975年においても1.6倍というかなり高い消費水準である。ところが、食肉の種類によって、その間に変化が認められる。牛肉の場合には1966年には沖縄県民は1人当り全国平均1人当りの約80%程度の消費水準でしかなかった。ところが、それ以降、沖縄

第2表. 食肉の消費量(1人当り)

単位: kg, () 内%

| 年 次 | 沖 縄 県 | | | | 全 国 | | | |
|------|-------------|--------------|-------------|---------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| | 牛 肉 | 豚 肉 | 鶏 肉 | 計 | 牛 肉 | 豚 肉 | 鶏 肉 | 計 |
| 1966 | 1.3 (9) | 11.8 (81) | 1.5 (10) | 14.6 (100) | 1.6 (17) | 5.0 (54) | 2.7 (29) | 9.3 (100) |
| 1967 | 2.5 (14) | 13.1 (73) | 2.4 (13) | 18.0 (100) | 1.6 (16) | 5.6 (54) | 3.1 (30) | 10.3 (100) |
| 1968 | 3.2 (17) | 13.2 (69) | 2.7 (14) | 19.1 (100) | 1.8 (17) | 5.2 (50) | 3.4 (33) | 10.4 (100) |
| 1969 | 3.5 (17) | 13.3 (67) | 3.2 (16) | 20.0 (100) | 2.4 (20) | 5.4 (45) | 4.2 (35) | 12.0 (100) |
| 1970 | 3.5 (16) | 14.6 (65) | 4.2 (19) | 22.3 (100) | 2.8 (20) | 6.7 (47) | 4.8 (33) | 14.3 (100) |
| 1971 | 4.4 (18) | 15.2 (61) | 5.1 (21) | 24.7 (100) | 3.2 (20) | 7.3 (46) | 5.5 (34) | 16.0 (100) |
| 1972 | 3.5 (14) | 12.8 (53) | 7.9 (33) | 24.2 (100) | 3.3 (19) | 8.0 (46) | 6.1 (35) | 17.4 (100) |
| 1973 | 4.7 (16) | 16.1 (53) | 9.4 (31) | 30.2 (100) | 3.2 (17) | 9.1 (48) | 6.6 (35) | 18.9 (100) |
| 1974 | 4.3 (13) | 18.8 (59) | 8.8 (28) | 31.9 (100) | 3.4 (18) | 9.2 (48) | 6.6 (34) | 19.2 (100) |
| 1975 | 6.3 (20) | 18.6 (60) | 6.1 (20) | 31.0 (100) | 3.6 (18) | 9.3 (47) | 6.8 (35) | 19.7 (100) |

資 料：沖縄県農林水産部「生鮮食料品安定移入対策調査報告書 昭和52年3月

注：沖縄県：沖縄県農林水産部等資料

全 国：「食料需給表」農林大臣官房調査課

県における消費量がふえ、1975年には沖縄県民の消費量は全国平均の1.8倍になっている。豚肉については1966年には沖縄県民は全国平均の2.4倍の消費量であったが、その後沖縄県における消費の伸びが停滞ぎみであるのに対して全国平均の伸び率がよく、その結果1975年には2.0倍に低下した。鶏肉については沖縄県の伸び率が全国平均を上回り、その結果、1966年には沖縄県民は全国平均の約60%の消費水準でしかなかったが、1975年には約90%にまで上昇している。

沖縄県の食肉の消費構造は1966年には食肉消費の約80%が豚肉で占められ、残る20%が牛肉と鶏肉でいたい半々を占めていた。ところが、この構造がしだいに変化をきたし、1975年の構成比率は、豚肉の占める比率が60%に低下し、牛肉と鶏肉がそれぞれ20%を占めるにいたっている。このように豚肉の占める比率が低下している要因の1つは、豚肉が沖縄県民の食生活に伝統的に古くから取り入れられ、^{*}他の食肉に比べてすでにかなりの量を消費していることから、食肉の消費拡大条件がでてきた場合に、豚肉をふやすと言うよりも牛肉や鶏肉の消費量をふやす傾向がでてきたためである。

全国平均でみると、食肉消費の構成においては、沖縄ほどではないが、やはり豚肉の比重が大きい。1966年に豚肉54%、鶏肉29%、牛肉17%となっており、1975年においても、この順位にはかわりがないが、豚肉の比重が若干低下し、鶏肉の比重がより高くなっている。

(第2表参照)

1975年の食肉の消費構造について沖縄県と全国平均を比較してみると、沖縄県では牛肉と鶏肉の比率が等しくなっているのに対して、全国平均では鶏肉の消費量が牛肉のその約倍になっていることが特に指摘できる。

Ⅳ 食肉価格と食肉消費量との関係

食肉価格の推移を検討してみるに、沖縄県においては、1966年から1970年頃までは牛肉と豚肉の価格差はあまりみられず、1966年についてみると豚肉価格の方が牛肉価格よりもむしろ高かった。それがしだいに牛肉の価格が高くなり、1975年には牛肉価格は豚肉価格の1.29倍にもなっている。食肉の中では鶏肉の価格が安く、豚肉価格を100%とした場合、1975年における鶏肉の価格は49%である。このように牛肉と豚肉、鶏肉との間の価格比は一定でなく、変化しており、牛肉と豚肉の間の価

格比は傾向として高くなっていることが認められる。他方、鶏肉と豚肉の間の価格比は逆に傾向としては低くなっている。牛肉と鶏肉は豚肉を中心として価格差は逆の方向に開きつつあることが認められる。

1971年から1975年にかけての各食肉価格の上昇率をみると、kg当り最も高い牛肉の価格がより高く(2.1倍)なり、ついで豚肉(1.9倍)、鶏肉(1.3倍)の順となっている。

価格の側面に限定して食肉間の代替関係を分析すると、牛肉と豚肉に関しては消費者は1966年には1kgの牛肉を得るのに0.97kgの豚肉を断念すればよかったのであるが、1975年にいたっては同じ1kgの牛肉を得るのに1.29kgの豚肉を断念せねばならなくなっている(つまり、1966年に比べて、0.32kgもよけいに豚肉を犠牲にしなければならなくなっている)。鶏肉と豚肉との関係を見ると、消費者は1969年に1kgの鶏肉を得るのに0.62kgの豚肉を断念しなければならなかったのであるが、1975年にいたっては同じ1kgの鶏肉を得るのに0.49kgだけの豚肉を断念すればよいことになる(つまり、1969年に比べて、0.13kgだけ豚肉を犠牲にする量が減ったことになる)。

ここで、食肉の価格変化と食肉消費量の変化を関連づけて分析してみよう。すでに明らかなごとく、価格の上昇率は牛肉が最も高く、ついで豚肉、鶏肉となっている。価格の面から言うとな牛肉が最も高級なもの、豚肉が中級、鶏肉が下級なものと言える。しかるに消費量はいかに変化したかと言えば、食肉すべてが一応増加しているが、その増加率は食肉の種類により一様ではない。牛肉と鶏肉の増加率が豚肉のそれに比べてはるかに大きかった。このことは食肉の消費構造に占める豚肉の地位が低下したことを意味する。

豚肉の消費量の伸びがこのように低い要因は沖縄県民の食肉消費量の中に占める豚肉の比率が伝統的に高く、所得条件、価格条件、その他の条件の変化によっても、あまり大きく変化(反応)しえないだけの量をすでに消費しているからであろう。

牛肉と鶏肉の消費の拡大要因はそれぞれ異なっている。所得の上昇にともない、消費者はより高級なものを嗜好する傾向がある。又、一方において、相対的に価格の安くなった商品の消費をふやすという傾向もある。牛肉は豚肉の高級な代替商品として評価されている。牛肉の価格に比較して相対的に高くなったにもかかわら

※ 中国との交流による食生活の導入(中国と同様に祝い事はもとより、日頃の食卓にも豚肉を取り入れた料理が多い)、気候的条件等

ず、牛肉の消費量が伸びているのは、所得の上昇にとともに消費者のより高級品への嗜好が高まった結果だとみられる。他方、鶏肉の消費が伸びた要因は鶏肉の価格が豚肉の価格に比べて相対的に安くなったために豚肉に鶏肉が代替したことによるものである。

全国平均の食肉価格の推移をみることにする。全国平均でも沖縄県と同様に食肉の価格の中では牛肉の価格の上昇が最も高く、ついで豚肉価格、鶏肉価格の順となっている。沖縄県に比べて牛肉と豚肉の価格差がより大きい。つまり、牛肉の価格が豚肉の価格に比べてはるかに高い。一方、豚肉の価格と鶏肉の価格との差は沖縄県におけるほどには大きくない。全国平均では沖縄県に比べて牛肉は食肉の中ではより高級品として評価されている傾向がみられる。全国平均について、食肉価格の変化と食肉消費量の変化を関連づけてみると、食肉の中で豚肉の消費率が減少した分については、それがほぼ鶏肉の消費率の増加と結びつき、牛肉の消費率の増加とはなっていない。(第3表参照)

V まとめにかえて

1. 沖縄県の食肉消費の特質は、全国平均に比べ

て、豚肉を除くとその自給率が低いことである。特に、牛肉の自給率が低い。ところが、沖縄県の牛肉需給は県内消費用牛肉はほとんど輸入に依存し、県内で生産した牛(および牛肉)のほとんどを他府県に供給しているという特殊な形態である。

2. 所得水準は沖縄県は全国平均の約75%程度であるが、食肉消費量は約1.6倍である。特に豚肉の消費量が多い。

3. 食肉の消費構造は豚肉中心であるが、しだいに豚肉から鶏肉および牛肉への消費の分散移行がみられる。

4. 豚肉の代替品としての牛肉および鶏肉の消費率がふえた要因は、牛肉の場合にはより高級なものへの嗜好が高まったためであり、鶏肉の場合には相対価格が低下したことによる。

5. 沖縄県における牛肉の消費は需要にみあう分を輸入しているのであるが、将来国内産牛肉で供給されるようになり、豚肉価格と牛肉価格の格差が現在よりも、もっと開くようになれば豚肉の代替品としては牛肉よりも鶏肉へより強い移行がみられるのではなかろうか。

第3表. 食肉の小売価格 (kg当り)

単位: 円/kg

| 年次 | 沖 縄 県 | | | | | 全 国 | | | | |
|------|--------|--------|--------|------|------|--------|--------|--------|------|------|
| | 牛 肉(B) | 豚 肉(A) | 鶏 肉(C) | B/A | C/A | 牛 肉(B) | 豚 肉(A) | 鶏 肉(C) | B/A | C/A |
| 1966 | 610 | 630 | — | 0.97 | — | 1,050 | 694 | — | 1.51 | — |
| 67 | 660 | 620 | — | 1.06 | — | 1,240 | 714 | — | 1.74 | — |
| 68 | 690 | 670 | — | 1.03 | — | 1,420 | 849 | — | 1.67 | — |
| 69 | 720 | 710 | 440 | 1.01 | 0.62 | 1,350 | 960 | — | 1.41 | — |
| 70 | 730 | 670 | 450 | 1.09 | 0.67 | 1,370 | 909 | — | 1.51 | — |
| 71 | 940 | 810 | 580 | 1.16 | 0.72 | 1,470 | 930 | 712 | 1.58 | 0.77 |
| 72 | 1,150 | 1,060 | 560 | 1.08 | 0.53 | 1,510 | 992 | 724 | 1.52 | 0.73 |
| 73 | 1,400 | 1,210 | 600 | 1.16 | 0.50 | 1,980 | 1,120 | 801 | 1.77 | 0.72 |
| 74 | 1,920 | 1,270 | 750 | 1.51 | 0.59 | 2,450 | 1,240 | 960 | 1.98 | 0.77 |
| 75 | 1,990 | 1,540 | 760 | 1.29 | 0.49 | 2,709 | 1,553 | 1,000 | 1.74 | 0.64 |

資料: 沖縄県統計課, 総理府「小売物価統計調査年報」

注: 牛肉: 沖縄県(コース), 全国(中)

豚肉: 沖縄県(コース), 全国(中)

鶏肉: 沖縄県(鶏肉), 全国(骨つきもも肉プロイラー)